

# 建設標

## 重要情報隠す国 封建時代のよう

森友問題の文書改ざん問題、そして新たに明らかになった防衛省のイラク日報隠蔽問題などの報道を見てみると、国が「由らしむべし知らしむべからず」という封建時代の体制に戻りつつあるという印象を受ける。

先日、映画「ペンタゴン・ペー

パーズ」を見た。ベトナム戦争の真実をひた隠しにしたい政府と、真実を記した機密文書を暴いた新聞社との戦いを描いた映画だ。まさに日本の現在を描いているかのような錯覚に陥った。ベトナム戦争では、事実が国民に伝えられなのまま、多くの若者が戦地に送り込まれて命を失った。新聞社は、国家反逆罪に問われるかもしれない危険を抱えても、報道に携わる自らの使命を自覚して報道した。

今、国の重要な情報は国民から隠される一方、国民の個人情報はいろいろな形でどんどん漏れていく。さらに国はマイナンバーで背番号を付け、国民を管理し始めた。弁護士も、弁護士業務が資金洗浄に利用されないためという理由で、依頼者の本人確認や記録保存などに関する年次報告書の提出を義務付けられることになった。極めてじくじたる思いだ。こんなことで良いのだろうか。

長野市 板谷健太郎

(弁護士・42)